

自分らしい最期の生き方を決める

～終末期の訪問看護・リハビリの関わり～

ゆうらいふ
ナースステーション

大川 裕美

子育てから看護・介護で 住み慣れた地域で最期の時まで!! を共に考えます

地域のあるもの探し・ご自分の資産を大切に

- 住まい・食の充実・自然の豊かさ
- 人とのふれあい交流と共通の文化
- 本人の資産：家・家族（子供や孫）・年金

NPO ゆうらいふ
地域包括ケア



総合的生活相談窓口

終の住処を
共に考えるケアマネジメント

- ゆうらいふ居宅介護支援事業所

地域密着サービス

住み慣れた地域で
最期の日まで!!

家を中心とした
通い・泊り・訪問の一体サービス

- 小規模多機能型居宅介護事業所 花梨

24 時間対応の在宅支援サービス

- ゆうらいふケアステーション
(介護職員 1 級以上 10 名以上 常駐)
- ゆうらいふナースステーション
- ゆうらいふヘルパーステーション

認知症の方々への支援

- グループホームすいれん
- ぐるーぷほむ花梨



介護職員初任者研修事業
(旧ホームヘルパー 2 級養成講座)

病院主治医(受診・往診)と連携

はじめに

腎臓癌末期で放射線治療を受けていたが、退院し在宅での療養を開始した利用者に約3カ月間関わらせていただきました。

最期の2週間は、緩和ケア病棟に入院されましたが、それまでの在宅療養生活はご本人と奥様にとって様々な選択の連続でした。

『最期の生き方を決める』選択に関わる中で、多くの事に気づくことができたのでここに報告します。

症例紹介

- A氏 68歳 男性 妻と二人暮らし
息子さん夫婦県内在住 娘さん千葉県在住
- 60歳で退職、会社でも地域でも中心となるリーダー的存在。明るく前向き、社交的で交友関係も多い。スポーツマンでスポーツ活動にも積極的。
- 61歳で腎臓癌発症
抗がん剤治療、手術などで
入退院を繰り返す。
骨転移、リンパ節転移もあり
全身にがんが転移していた。



64歳の時 地区の仲間としまなみ海道サイクリング

在宅療養への経過

腎臓癌末期からリンパ節転移があり、入院して放射線治療を行っていた。



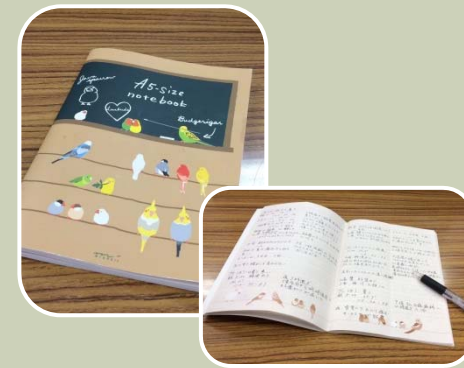
新たな抗がん剤治療を開始



副作用が強く治療を継続することが怖く、不安になる。



余命3ヵ月と宣告を受け
退院して在宅療養をすることにした。



妻がつけていた闘病記録

抗がん剤による副作用の出現

<看護師>
重曹水による口腔ケア
不安の緩和

口内炎

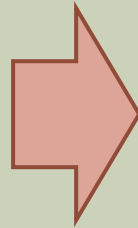
<妻>
ビタミン剤購入
食事の工夫

鼻出血

咳嗽・痰

発熱

食欲低下



症状に応じ、受診にて対応

症状は徐々に軽減

苦にせんと気楽にやっついこうと思っている

そのためにも、副作用を何とかしないと<A氏>

緩和ケア受診の提案

緩和ケアの受診をしてみてもいいかな？
看護師

なんで受診しなあかんのや？
そんなとこ使わへんのに。
入らへんで！

A氏

緩和ケアについて

受診しても入らんでいいん
やって。一回受診してみない。
妻

あの先生に出逢えてよかった！
気持ちがずっと楽になった!!
A氏・妻

緩和ケア

- A氏の思い(世間の認識) (図A)
緩和ケア = 最期の場所 最終の段階で利用する

マイナスイメージ

本来

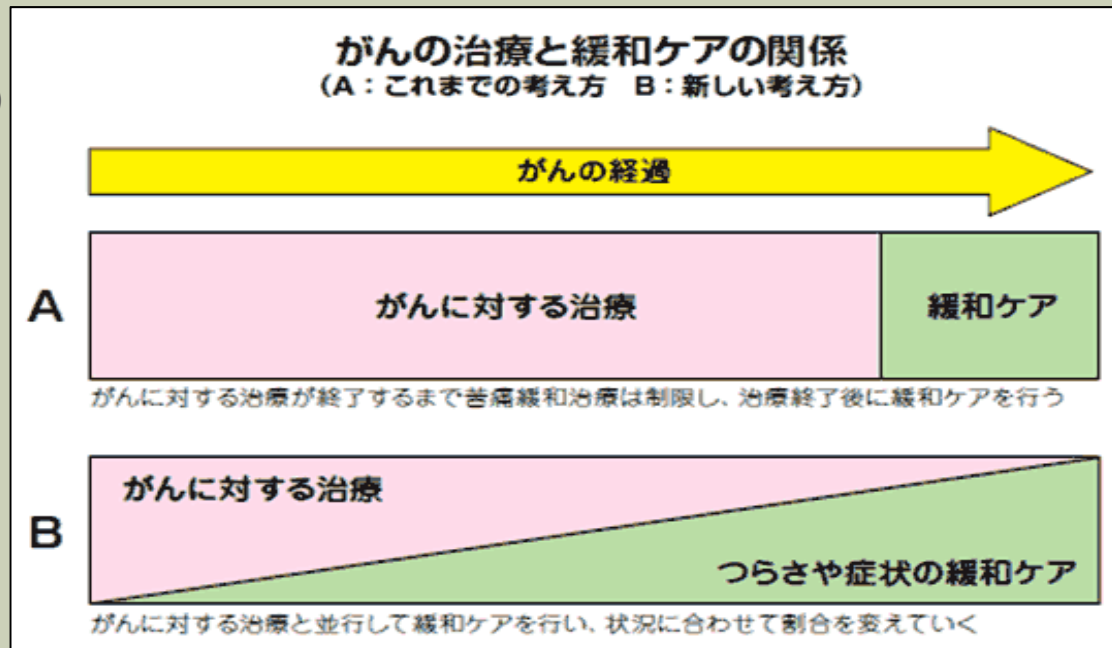
- 緩和ケアとは (図B)

身体的症状
こころの辛さ
社会的問題



和らげるための医療

【緩和主治医を交えて
の担当者会議の開催】



「がん」と診断された時から取り入れるべき

訪問リハビリの提案

受診時に転倒され、自力で起き上がれず他人の力を借りる。

このままではいけない！
リハビリをしなければ
A氏

看護師

訪問リハビリをしてみてもは？

そんなに頑張らなくても...

主治医

見捨てられた...
絶望感
A氏

すぐに始めたい!!

訪問リハビリテーション

- 立ち上がりの練習、全身調整訓練 等
- 自作のリハビリ棒を使用して自主トレーニング

<ある日のリハビリ風景>

今日はしんどいし半分に
しておこうかな... A氏

体調に合わせてやりま
しょうね。でも、奥さんが
ああ言われてますけど
どうされますか？
<セラピスト>

もうやめるの？
<妻>

休憩してもう少しがんばります！



リハビリの効果

- 目標を持ち達成感が得ることができる。
- 自分の出来ることを見つけられる。(生きる希望)
- 笑顔が増えた。
- 頑張っている姿が、妻(家族)の喜びにもつながる

不安へ目を向けてしまいがちな終末期
リハビリの導入により、

QOLを向上することができた

転倒そして入院

両足の浮腫が著明になりトイレへ行くこともしんどくなってきた。

A氏

ポータブルトイレの
使用の検討を
提案する。

看護師

妻に迷惑がかかるから、
もう少し頑張りたい。
(トイレでの排泄が)できなくなったら
入院も考えているんや...

トイレに行く時に転倒され、救急搬送される

落ち着くまで入院しますか？
良くなれば、
また家に帰ったらいい。主治医



妻の意向もあり入院

A氏の選択

看護師は、訪問での様々な場面において選択肢を提案

A氏は妻をととても大切にされてきました。

必ず妻の意見を聞き、妻に配慮し決定された。

A氏にとっての自分らしさ

||

妻が喜び、安心できる選択をすること

妻の言葉

- 訪問に来てもらえる時間は、すべて身をゆだねられる時間だった
- つらい事の多い時期だったが、訪問に来てもらう時間はすべてを忘れられる安心できるひと時だった。
- リハビリは「これで少しでも良くなる！」という希望だった。達成する喜びを一緒に味わえてうれしかった。
- 最期は緩和ケアに入院して良かった。家ではとてもできなかった。
- 最後まで、私に排泄の世話をさせなかった。

おわりに

- 限られた時間の中で、

本人や家族と向き合い、

思いをきちんと受け止めること、

本人がどう最期を迎えたいかに寄り添うことの大切さ

そして

看護師としていつ、何を、どのように提案するべきか
について配慮することを学ばせていただきました。

ご清聴ありがとうございました

